



『戦争法廃止』スタンディング行動！

子育て・教育を語り合う教育懇談会開催！



全国一斉スタンディング行動 市内3ヶ所で実施！

「憲法守りいか
す夕張共同センター」
は、9月19日(月)
の敬老の日に、全国
一斉のスタンデン
グ・ハンドマイク行
動を行いました。
近、中央地区の清水
沢交差点、南地区の
メロード付近の3ヶ
所・空知教組・
新婦人らの団体か
ら、それぞれ、5
分程度訴えをしま
した。

戦争法が強行され
てから、ちょうど
一年となるこの日、
全国各地で「戦争
法廃止」「立憲主義
を取り戻せ！」の
スタンディング行動
が行われました。
夕張での延べ参
加人数は、21名で
した。観光客や買
い物の人たちに、
「11月に派遣さ
れる南スーダンへ
の第11次PKO
派遣予定の自衛隊
員が、殺し殺され
る危険な、状況が
身近に迫ってきて
います。
また、9月26日

から始まる国会で、
安倍「暴走」政権は
「共謀罪」を提案し
ようとしています。

この法律は、過去3
回にわたって提案さ
れ、いずれも国民の
強い反対にあつて廃
案になったものです。
今度は「テロ対策特
別措置法」と名前を
変えて、成立をもく
ろんでいます。

安倍首相の「得意
の言葉のまやかし」
であり、国民の自由
な発言や行動を取り
締まる危険な法律で
あることに変わりな
くありません」と訴え
ました。

ハンドマイク行動に参
加した団体からは、
行中の市民や観光客
の危険を訴え、安倍
退陣！平和な国づく
りを進めようと呼び
を訴えました。

子どもの学力問題

「子育て・教育をみんなで語り合おう」

教育懇談会



9月24日夕張市民研修センターにおいて、空知合同研究集会夕張実行委員会主催の教育懇談会が「子育て・教育をみんなで語り合おう」のテーマのもと開催されました。

15名の参加者は、おもに昨今の「子どもの学力問題」を中心に意見を交わしました。

1960年代の全国学力検査は、過度な競争を招き、教育現場に多くの弊害をもたらしました。しかし、財界の要請による高度成長を支える良質の労働力の獲得という動機の不純さはあったものの、ある意味、子どもの学力向上を狙ったものであることが、報告されました。

しかし、2007年から実施されている今の全国学力検査は、建前の上では、子どもの学力向上をうたいながら、それとは逆に、無益な競争と序列化を図ることにより、財界が作り出した格差社会を無批判に受け入れる盲従的な人間づくりの場に学校を変質させようとするものです。

懇談会では、教育とはひとりひとりの国民の能力を最大限にのぼしうるものでなければならないという憲法の精神を改めて確認し、日本の競争原理による学力向上の施策を克服していかなければならないことを確かめました。

「母親大会」開催

「生命を生みだす母親は生命を守ることをのぞみます」をスローガンに、第59回北海道母親大会が9月25日札幌で開かれました。

全道各地から90

0名が参加しました。記念講演「憲法の窓から見てみよう！いま、未来・・・」で金杉美和さんは

「今私たちが国を縛るものであるはずの憲法が、私たちが縛るものに変えられようとしている。私たちが生きて自由で、幸せであるために、今起きている動きを正しく知り、一緒に学び合い、一歩一歩力をは小さくとも、きな輪になろう」（旧夕張駅）

呼びかけました。参加した母親たちは子どもたちの健やかな成長、生命と暮らしを守るために、憲法を守る運動に力を合わせることを確認しました。

かな成長、生命と暮らしを守るために、憲法を守る運動に力を合わせることを確認しました。

南空知憲法共同センター総会開催

9月22日、憲法漫談のあと、第2回南空知憲法共同センターの総会が開かれました。2016年の活動方針と新しい役員体制が、満場一致で承認され、「市民と野党の共闘をさらに推し進め、戦争法廃止めざし」全力で、奮闘することを出席者で確認し、閉会しました。

くずさんの夕張歴史散歩(57)



人の出入りは自由にさせず

どこの企業も従業員の動向には気になるようですが、北炭の警察的労務管理は徹底しています。特に人の出入りには神経を使いました。

炭鉱地域への入り口から

石炭の搬出を主目的（旅客はついで）に一八九二（明治25）年に開通した夕張鉄道は、夕張駅が終着駅になつていて行きどまりです。

その位置は、炭山地域の中に建っていて、駅中心にその周辺に商店街が出来るという街づくりはみられません。あるのは、

駅前に関する

夕張駅の正面には労務連絡所が設けられ、駅改札を出入りする人に監視の目を光らせていました。夕張に来たからには、いやでもその前を通らないとならず、関所なみでした。

特に辛い坑内労働や借金から逃げ出す坑夫の監視や、主義者と云われる者や胡散臭い者など蟻一匹も通さない監視体制を布いていました。



岩渕 友「国会かけある記」
参議院議員

岩渕 友

安全神話を繰り返すな

九月十五日、畠山和也衆院議員、道議団、岩内町議団をはじめとしたみなさんと泊原発の視察を行いました。再稼働にむけた審査が「大詰め」と言われています。八月に行った国政報告会・懇談会でも、「調査に行つてほしい」と要望をいただいでいました。

これまで見てきたのは事故を起こした福島第一原発。当然ですがあまりにも違います。原発が事故を起こすということがどれほど恐ろしいことか。

安全対策にこれまでに二〇〇億円前半というお金がつか込まれ、これからも膨らんでいきます。再稼働しないわけにはいかない、採算があわない、ますます再稼働に突き進んでいくことになりそうです。どんなに安全対策を行つても大丈夫とは言えません。安全神話を繰り返さないということが福島原発事故の教訓なのではないでしょうか。

仁木町の佐藤聖一郎町長と懇談し、町民のみなさんからも話をうかがいました。高齢者や障がいのある方などの避難をどうするのか。福島を経験から避難所を何カ所も移動することになれば大きな負担になることが心配だなど、不安や怒りの声が出されました。国も北電も知事も道民の声に真摯に耳を傾けるべきです。

再稼働反対の運動が広がる中で札幌での説明会が初めて行われました。しかし、道民の不安にこたえる中身にはなっていない。みなさんと力をあわせて再稼働を許さないたたかいを大きく広げ、初めての臨時国会の論戦でも追求します。